

絡繰茶々丸のマスター 観察記録

ハロルド

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

私、絡繰茶々丸はガイノイドである。これはそんな私がもしも製作時に感情を得ていたら？ という作品です

目次

2001年6月14日

1

2001年6月14日

私、絡繰茶々丸はガイノイドである。私の事を端的に表すのならばその一言に集約出来るだろう。

ガイノイドーつまりは女性体のロボット。我が創造主である超鈴音、そのご友人兼開発者の葉加瀬聡美の両名によって生み出された科学と魔法のハイブリット。それが私という存在です。

「おい茶々丸、早く夕食を用意しろ。あと私の部屋を清掃しておけ。それと明日は弁当の気分だから作っておけ。最後に風呂も沸かすんだぞ」

「……了解しました、地獄に落ちてくださいマスター」

この偉そうに命令を下してくる金髪幼女こそ、我がマスターであるエウヰ アンジェリン・A・K・マクダウエル。非常に愛らしいツンデレ。キティと呼ばれるとツンデレるのはご愛敬ですね、今日も今日とて録画に勤しみましょう。

今日もマスターは相変わらず授業をサボタージュなう。登校地獄のせいとはいえ、中学生を既に10年以上も繰り返しているのならば致し方ないのでしようか。私はまだ製作されてから1年と経つ事がないので、見ることに聞くこと全てが新鮮味溢れていて楽しいですが。特にサブカルチャーはただハマりしました、最近の主従系として執事モノや使い魔などを見たりしておりますね。キティの使い魔は私と姉さんですし。

ああマスター。寝るのでしたら私のひざ枕をお使いください、人工スキンの柔らかさ

には少々自信が、ハカセに頼んで無理に作っていただいたので餅肌すべすべなのは保障
出来ませぬ。

「……少し寝る。放課後になったら起こせ」

「了解」

ああマスター、とても愛らしい寝顔ですね。保存、保存、保存。おや、スクショを保
存するための容量が限界に近い。ハカセに頼んでメモリの増設と圧縮してもらわね
ば、マスターマスターマスターマスターマスター。ムービーフォルダもそろそろヤバイ
です、超鈴音ももう少し頑張っていたきたい。しかし私をマスターの元に遣わせてい
ただいたことには心からの感謝を。

そして放課後。文字に表せば数行にも満たないというのに、時間の流れは正しく矢の
如しと言った所でしようか。もっとマスターの寝顔を堪能して欲しいのは山々だが命
に反する訳にもいかないため起こすことに。

「マスター。お目覚めの時間です」

「…………う、む。分かった」

ああああああああああ、スクシヨが、スクシヨフォルダが埋まってしまった。とてつもなく愛らしい寝ぼけマスタートという今この瞬間を残せないなど何という未練、身を引き裂かれるような胸の痛み。これが理不尽な運命への憎悪？ それともきちんと計画管理的にしていなかった己への自己嫌悪？ ああ、どうでもいい。そんなことは関係ない。私の真理はただ一つ。

マ
ス
タ
ー
超
可
愛
い

今日のマスター

茶々丸から「地獄に堕ちろ」と言われた。鬱だ、死のう